

五島市内の医療関係者と社会福祉施設に対し水産物を寄贈しました！

県の水産物国内流通促進緊急対策事業を活用し、五島市内2漁協が新型コロナウイルス感染症の対応に奮闘している医療従事者等を元気づけようと水産物を寄贈しました。

五島ふくえ漁業協同組合は、五島市内で養殖されたクロマグロと五島市沿岸域で漁獲されたヒラマサ、マダイ、キビナゴの4魚種をセットとして、12月11日に富江病院、12月15日に長崎県五島中央病院の職員へ、また、12月17日には社会福祉法人奥浦慈恵院に計471セットを贈りました。

長崎県五島中央病院を訪問した五島ふくえ漁協の熊川組合長は「医療現場の最前線で頑張っている皆さまへの日頃の感謝として、五島ふくえ漁協管内の魚を配布いたします。魚を食べて新型コロナウイルスと戦いましょう。」とあいさつ。箱に入った魚を受け取った五島中央病院の竹島院長は「新型コロナウイルスへの対応の最前線で働いている医療従事者に対して、このような素晴らしい魚を頂き感謝している。これからも頑張っていきたい」とお礼の言葉がありました。

奈留町漁業協同組合も同様に、12月15日に奈留医療センターと宿輪医院、社会福祉法人なるの里へ、五島市奈留町で養殖されたクロマグロ、マアジ、カンパチ計100食分を贈りました。

なるの里を訪問した奈留町漁協の大久保組合長は「新型コロナウイルスの対応で奮闘し、地元のために尽力されている皆さまに感謝し、魚を食べて元気を出してもらいたい」とあいさつ。なるの里の生田理事長は「医療従事者だけでなく、社会福祉施設にも目を向けてくださり感謝します。これから更に厳しくなると想定される新型コロナウイルスの対策に向け頑張っていきたい」とお礼の言葉がありました。



図1 富江病院の小原院長（左）と
五島ふくえ漁協の熊川組合長（右）



図2 五島中央病院の竹島院長（左）と
五島ふくえ漁協の熊川組合長（右）



図3 奥浦慈恵院の職員へ魚を渡す
五島ふくえ漁協の熊川組合長（右）



図4 奈留町漁協の大久保組合長（左）と
なるの里の生田理事（右）



図5 奈留町漁協の大久保組合長（左）と
奈留医療センター中村事務局長（右）



図6 奈留町漁協大久保組合長（左）と
宿輪医院の宿輪院長（右）



図7 五島ふくえ漁協が配布した養殖マグロ



図8 奈留町漁協が配布した養殖カンパチ